

障がい者スポーツ振興に関する 主な検討項目

- 1 障がい者スポーツの実施状況及び課題の把握
- 2 障がい者スポーツの普及促進に向けた効果的な取組
- 3 障がい者スポーツセンターの役割・意義
- 4 地域での障がい者スポーツの普及に向けて
- 5 長居障がい者スポーツセンターのめざす姿

障がい者スポーツ振興に関する主な検討項目

1 障がい者スポーツの実施状況及び課題の把握

(1) 市内障がい者のスポーツ実施率等

- ・ 国の第2期スポーツ基本計画では、障がい者のスポーツ実施率について週1回以上40%程度を目標としている
- ・ 市の実施率は把握していないため、今年度の「大阪市障がい者等基礎調査」で、実施の有無のほか、実施種目、実施場所、実施しなかった理由などの調査を予定

【参考】平成28年度大阪市障がい者等基礎調査（抜粋）【付属資料1（P10・11）参照】

- ・ 障がい者の日中の主な活動：趣味、スポーツ、レクリエーションなどの活動 10%
- ・ ほとんど外出せずに、家にいることが多い 35%

(2) 現状と課題の把握

【長居・舞洲SC利用者アンケート】

○ 利用のきっかけ

理由	長居SC	舞洲SC
障がい者専用の施設	22%	26%
健康の維持増進	15%	18%
交通のアクセスが良い	14%	5%
スポーツが好き	12%	14%

【H29スポーツ庁調査】

障がい者スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的

- ・ 健康の維持・増進41%
- ・ 気分転換・ストレス解消19%
- ・ 楽しみ11%

障害者スポーツ非実施者におけるスポーツ実施の障壁理由
(複数回答)

- ・ **特になし**51%
 - ・ 体力がない21%
 - ・ 金銭的な余裕がない20%
 - ・ やりたい種目がない10%、
 - ・ 時間がない9%
- スポーツをするきっかけ（場所、機会）があれば、スポーツに親しむ障がい者が増える？
障壁を取り除くための取組が重要

障がい者スポーツ振興に関する主な検討項目

2 障がい者スポーツの普及促進に向けた効果的な取組

(1) する人を増やす

- ・裾野を広げる

(2) みる人を増やす

- ・観戦者

(3) ささえる人を増やす

- ・スポーツ指導者、ボランティア等

(4) 競技力の向上

(5) 組織の強化、連携

(参考) 現状の本市の障がい者スポーツ振興施策は、付属資料1(P3)を参照

障がい者スポーツ振興に関する主な検討項目

3 障がい者スポーツセンターの役割・意義

(1) 障がい者スポーツセンターの現状

- ・ 昭和49年に全国初の障がい者専用の「長居障がい者スポーツセンター」が開設
- ・ 平成9年に市内で2番目となる「舞洲障がい者スポーツセンター」が開設
- ・ 現在、国内には141の障がい者専用・優先のスポーツセンター*が存在

(出典：笹川スポーツ財団2018年度「障害者専用・優先スポーツ施設に関する研究」)

要件1：体育館、またはプールのいずれかを所有している

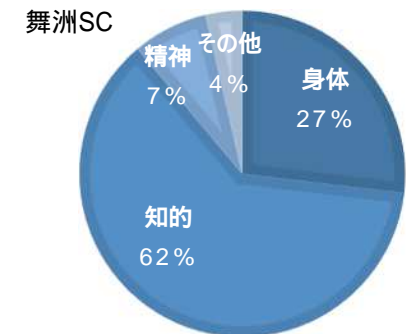
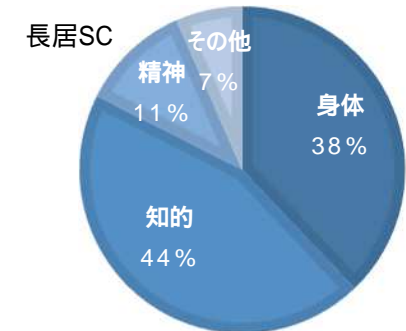
要件2：利用を希望する個人、及び「団体に施設を貸し出している（障がい者の個人利用と団体利用がある）」

(2) 長居・舞洲障がい者スポーツセンターの現状

- ・ 障がい者専用（身体障害者福祉センターA型）
- ・ 3年以上の利用者：長居・舞洲とも7割程度
- ・ 週1回以上の利用者：長居6割、舞洲5割
- ・ 利用目的：リハビリ、健康の維持増進のほか、生涯スポーツ目的が多い
- ・ 利用効果：仲間が増えた、身体の調子の改善など
- ・ 開設当時は、身体障がい者のリハビリや社会参加を主な目的としていたが、時代とともに知的・精神障がい者の利用が進むなど、利用目的やスポーツ種目も多様化

【付属資料1(P12)参照】

【参考】
H30年度障がい種別利用者の割合



(3) 障がい者スポーツセンターが果たす役割

- ・ リハビリテーション、いきがいや仲間づくり、豊かな生活の実現など、障がい者の自立生活や社会参加の促進
- ・ 障がいのある人もない人も共にささえ合い暮らす共生社会の実現

専門性	先進性	地域性	理解促進	競技力向上
・ 障がい者スポーツの場の提供 ・ 指導員、ボランティア等の育成 など	・ 障がい者スポーツの情報発信 ・ 障がい者スポーツの発展を牽引 など	・ 身近な地域での障がい者 スポーツの普及 など	・ 障がい者スポーツへの理解 促進 など	・ パラスポーツ選手の育成 など

障がい者スポーツ振興に関する主な検討項目

4 地域での障がい者スポーツの普及に向けて

(1) 地域での障がい者スポーツの実施の必要性

する	みる	ささえる
身近な地域でスポーツをできる手軽さ スポーツ実施率の向上	障がい者スポーツを観戦する機会の創出	障がい者スポーツボランティア等の増加

障がいのある人・ない人との交流機会の創出
↓
共生社会の実現

(2) 各区スポーツセンター・プールにおける障がい者の利用状況

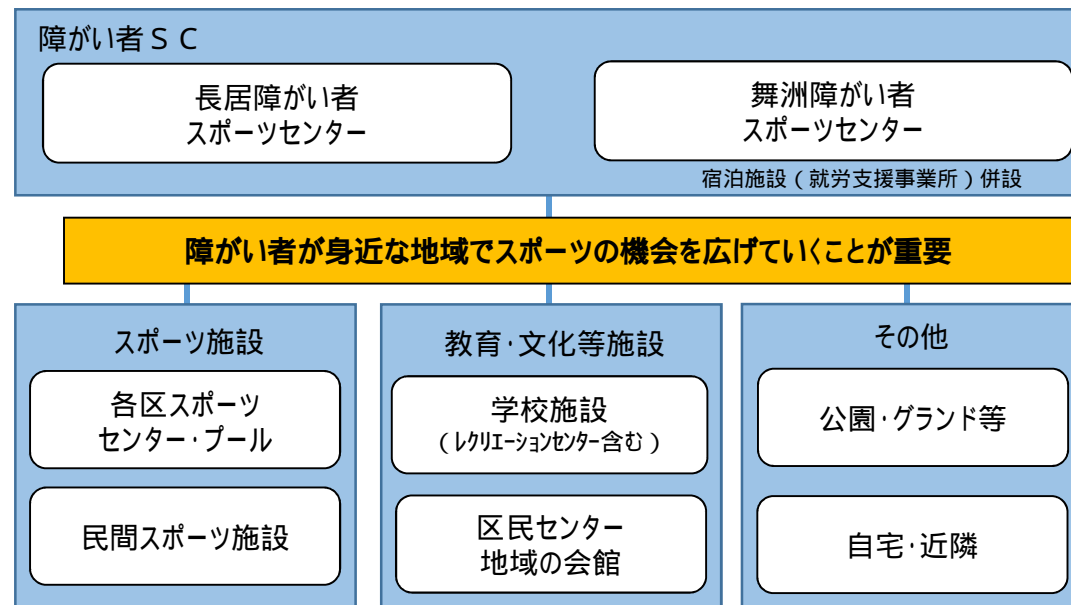
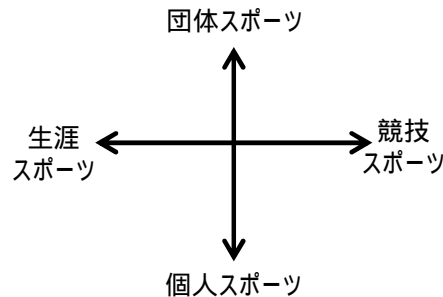
市内24区のスポーツセンター・プールにおいてもバリアフリー化や障がい者スポーツ指導員の配置等を進めており、障がい者の一定の利用が見られる【付属資料1(P13)参照】

(3) 現状と課題、取組の方向性

ア 活動場所

イ 活動形態

ウ 各施設の役割



障がい者スポーツ振興に関する主な検討項目

5 長居障がい者スポーツセンターのめざす姿

(1) 現状と課題

- ・ 老朽化や構造、規模などのハード面
- ・ 障がい者スポーツ振興の取組や仕組みなどのソフト面
- ・ パラスポーツ競技種目や多様化する障がい者スポーツへの機能面（次頁）

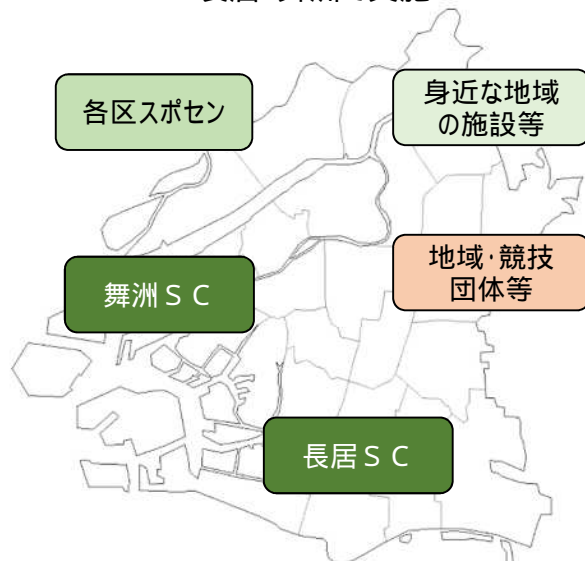
(2) 障がい者スポーツの「中核拠点」として

めざす姿 市域（地域）の障がい者スポーツの中核拠点へ

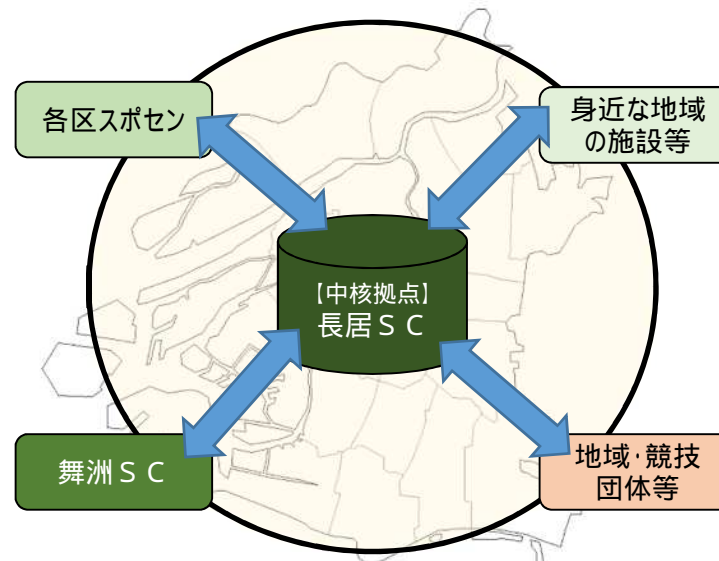
- ・ 障がい者スポーツの実施率向上、社会参加の促進
- ・ いつ、一人で来館しても安心してスポーツを楽しむことができる環境づくり
- ・ 誰もが障がい者スポーツに親しむきっかけづくり
- ・ 障がいのある人もない人も一緒に取り組むスポーツの普及 など

(3) イメージ

（現状） 障がいのある人のスポーツは
長居・舞洲で実施



（めざすイメージ） 長居を中核拠点として、障がい者スポーツ
を通じた共生社会の実現に取り組む



障がい者スポーツ振興に関する主な検討項目

5 長居障がい者スポーツセンターのめざす姿

(4) 多様化する障がい者スポーツへの機能面の対応

■ パラリンピック競技（22競技）

種目	
アーチェリー	ボート
陸上競技	射撃
バドミントン	シッティングバレーボール
ボッチャ	水泳
カヌー	卓球
自転車競技	テコンドー
馬術	トライアスロン
5人制サッカー	車いすバスケットボール
ゴールボール	車いすフェンシング
柔道	車いすラグビー
パワーリフティング	車いすテニス

■ 過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション(成人)の上位10種目(平成29年度スポーツ庁調査)

種目
散歩（ぶらぶら歩き）
ウォーキング
体操（軽い体操など）
水泳
筋トレ（マシン）
ジョギング・ランニング
筋トレ（ダンベル等）
ハイキング
ヨーガ
キャッチボール